

福岡・大宰府条坊跡



(太宰府)

この溝はL字形に流れる溝と思われ、西側および南側に延びる。幅は三・五m、深さは〇・七m。埋土は上層・下層・最下層からなり、下層は有機質層で木筒ほか多数の木製品などを包含する。遺物は上・下層に多く、最下層には殆ど含まれてい

- 1 所在地 福岡県太宰府市大字通古賀字半田
- 2 調査期間 一九七九年（昭54）一二月～一九八〇年一月
- 3 発掘機関 太宰府市教育委員会
- 4 発掘担当者 山本信夫
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 奈良・平安時代（八世紀前半～一〇世紀）
- 7 遺跡及び木筒出土遺構の概要 木筒は条坊第二次調査・推定右郭七条七坊南西部の溝二（SD200）から出土した。
- 8 木筒の积文・内容 表裏両面に墨書きされるが判読は不可能である。上下左右は破損し原形は判明しない。
- 9 関係文献 太宰府町教育委員会『太宰府条坊跡』太宰府町の文化財第五集（一九八二年）
- （山本信夫）



ない。土師器、須恵器、墨書き土器（「南」「元」「□」）、木製品（錐柄、手斧着装柄、鳴鏑？、丸木弓、舟形などの工具、武器、祭祀用具）、昆虫の羽根、植物種子・葉などがある。土器の年代は八世紀前半～中頃で、上層は八世紀中頃には埋没したと思われる。なお、溝の周辺部は未発掘のため、全体的な遺跡の性格については明確ではない。